

系統的なキャリア教育の 更なる推進のために

令和元(2019)年5月30日

筑波大学 人間系
教授 藤田 晃之



草創期のキャリア教育の焦点

- ニート・フリーター問題への対応策のひとつとして登場 (1999[平成11]年・中教審答申、2003[平成15]年・若者自立・挑戦プラン)



- 「小学校では早すぎる」との評価の定着化
- いわゆる「進学校」と評される高校での不活性化
 - むしろ、キャリア教育への否定的態度の助長



- 予算がついて全国展開する「中学校での職場体験活動」の突出化 (2005[平成17]年度～文科省「キャリア・スタート・ウィーク」)
 - なんだ、キャリア教育っていうのは、中学で職場体験をさせればいだけなんだ.....

平成23年の中教審答申を読む

- キャリア教育の必要性や意義の理解は、学校教育の中で高まってきており、実践の成果も徐々に上がっている。
しかしながら、「新しい教育活動を指すものではない」としてきたことにより、従来の教育活動のままでよいと誤解されたり、「体験活動が重要」という側面のみをとらえて、職場体験活動の実施をもってキャリア教育を行ったものとみなしたりする傾向が指摘されるなど、一人一人の教員の受け止め方や実践の内容・水準に、ばらつきがあることも課題としてうかがえる。
- このような状況の背景には、キャリア教育のとらえ方が変化してきた経緯が十分に整理されてこなかったことも一因となっていると考えられる。このため、今後、上述のようなキャリア教育の本来の理念に立ち返った理解を共有していくことが重要である。

※中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(2011[平成23]年1月)

今日のキャリア教育の定義

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育。

●「キャリア」とは何か？

人は、他者や社会とのかかわりの中で、職業人、家庭人、地域社会の一員等、様々な役割を担いながら生きている。これらの役割は、生涯という時間的な流れの中で変化しつつ積み重なり、つながっていくものである。(中略)このように、人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ねが、「キャリア」の意味するところである。

また、このように、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程を「キャリア発達」という。

※中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(2011[平成23]年1月)

「人間関係形成・社会形成能力」は、多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力である。

例えば、他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、コミュニケーション・スキル、チームワーク、リーダーシップ等が挙げられる。

「自己理解・自己管理能力」は、自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力である。

例えば、自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、忍耐力、ストレスマネジメント、主体的行動等が挙げられる。

キャリア教育を通して育てる 基礎的・汎用的能力

「課題対応能力」は、仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力である。

例えば、情報の理解・選択・処理等、本質の理解、原因の追究、課題発見、計画立案、実行力、評価・改善等が挙げられる。

「キャリアプランニング能力」は、「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力である。

例えば、学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性の理解、将来設計、選択、行動と改善等が挙げられる。(第1章3(2)③)

※中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(2011[平成23]年1月)

新学習指導要領 総則が示すキャリア教育実践の在り方

● 小学校 (第4 児童の発達の支援 1 児童の発達を支える指導の充実)

- (3) 児童が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。

● 中学校・高等学校

(中学校:第4 生徒の発達の支援 1 生徒の発達を支える指導の充実)

(高等学校:第5款 生徒の発達の支援 1 生徒の発達を支える指導の充実)

- (3) 生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。その中で、生徒が自らの生き方(中)／生徒が自己の在り方生き方(高)を考え主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、組織的かつ計画的な進路指導を行うこと。

新学習指導要領 総則が示すキャリア教育実践の在り方

児童・生徒が、

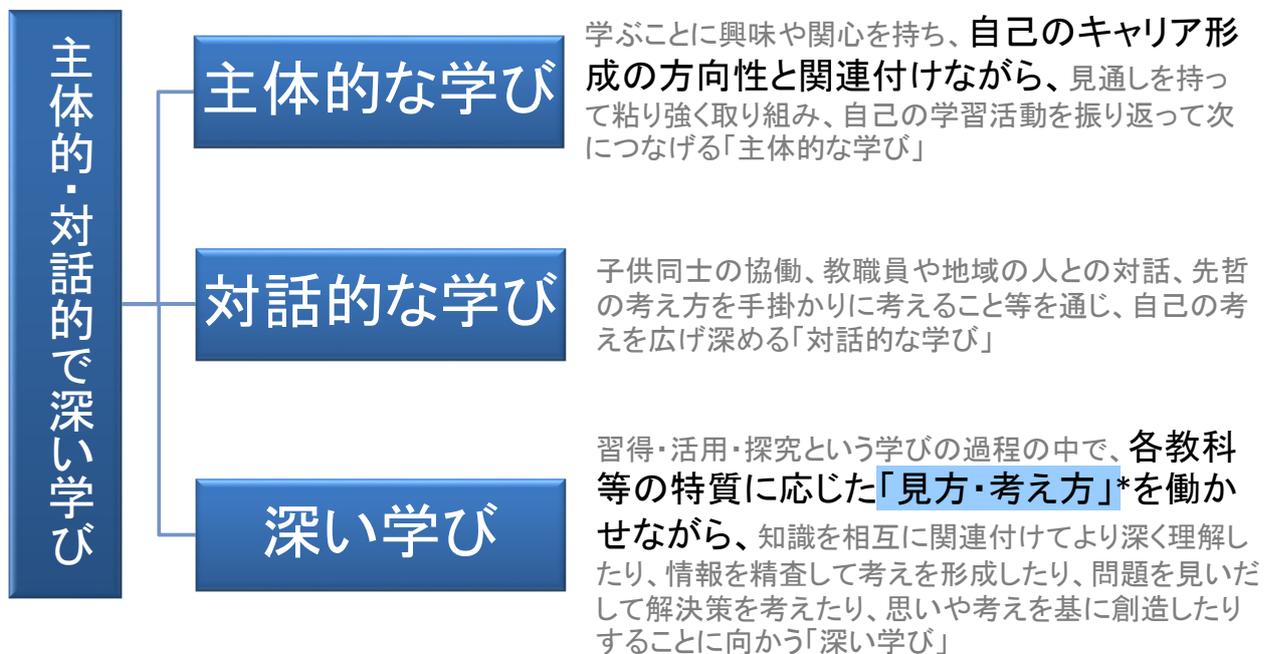
- 学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、
- 社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力※を身に付けていくことができるよう、
※各学校が、目の前の子供の実態に即して設定する
- 特別活動を要しつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図る。

なるほど、
今学んでいることは、自分にとって重要なんだなあ



なぜなら、この学びを通して、将来必要なこんな力が身につくのだから

特別活動を要しつつ、
すべての教育活動を通して実践する



*見方・考え方＝各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方

「見方・考え方」には教科等ごとの特質があり、各教科等を学ぶ本質的な意義の核心をなすものとして、教科等の教育と社会をつなぐものである。子供たちが学習や人生において「見方・考え方」を自在に働かせられるようにすることにこそ、教員の専門性が発揮されることが求められる。

*見方・考え方＝各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方

「見方・考え方」には教科等ごとの特質があり、各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすものとして、教科等の教育と社会をつなぐものである。子供たちが学習や人生において「見方・考え方」を自在に働かせられるようにすることにこそ、教員の専門性が発揮されることが求められる。

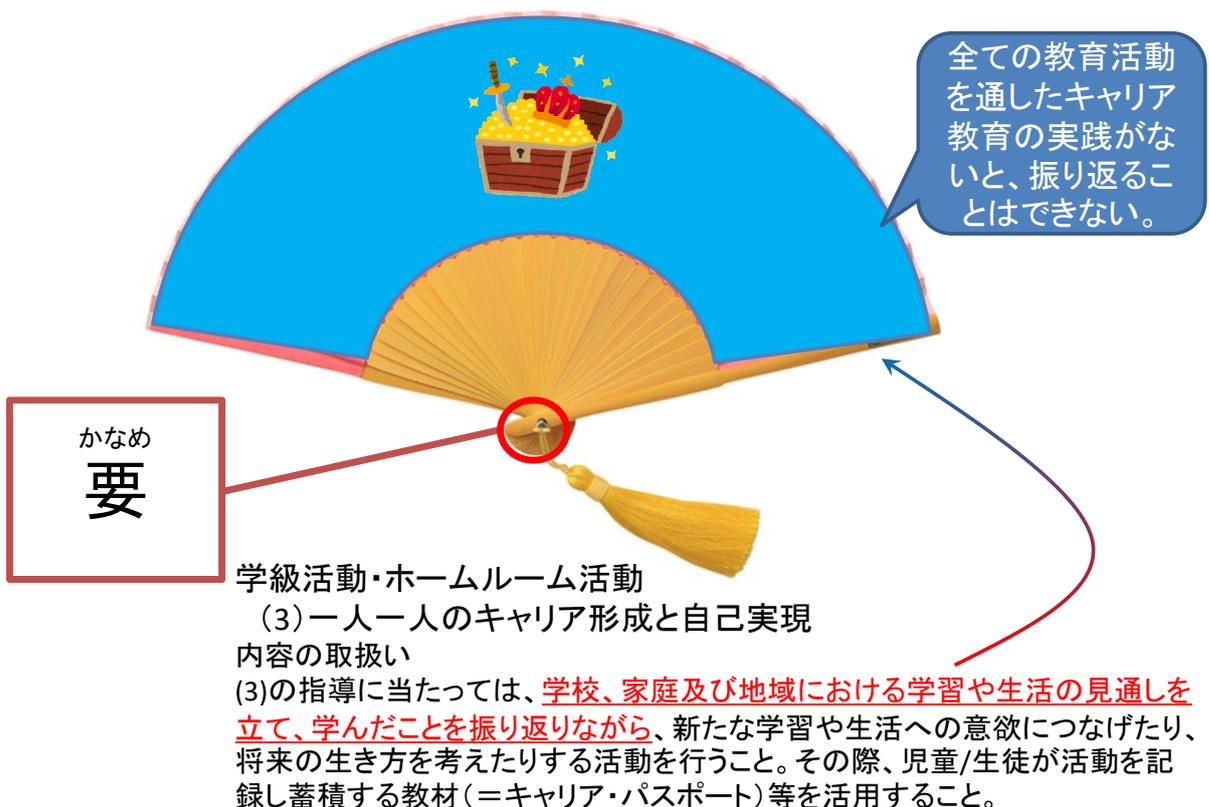
子供たちに必要な資質・能力を育てていくためには、各教科等での学びが、一人一人のキャリア形成やよりよい社会づくりにどのようにつながっているのかを見据えながら、各教科等をなぜ学ぶのか、それを通じてどういった力が身に付くのかという、教科等を学ぶ本質的な意義を明確にすることが必要になる。

【出典】中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」p.32



極めて重要な 各教科等を通したキャリア教育の実践

「要」活用の大前提

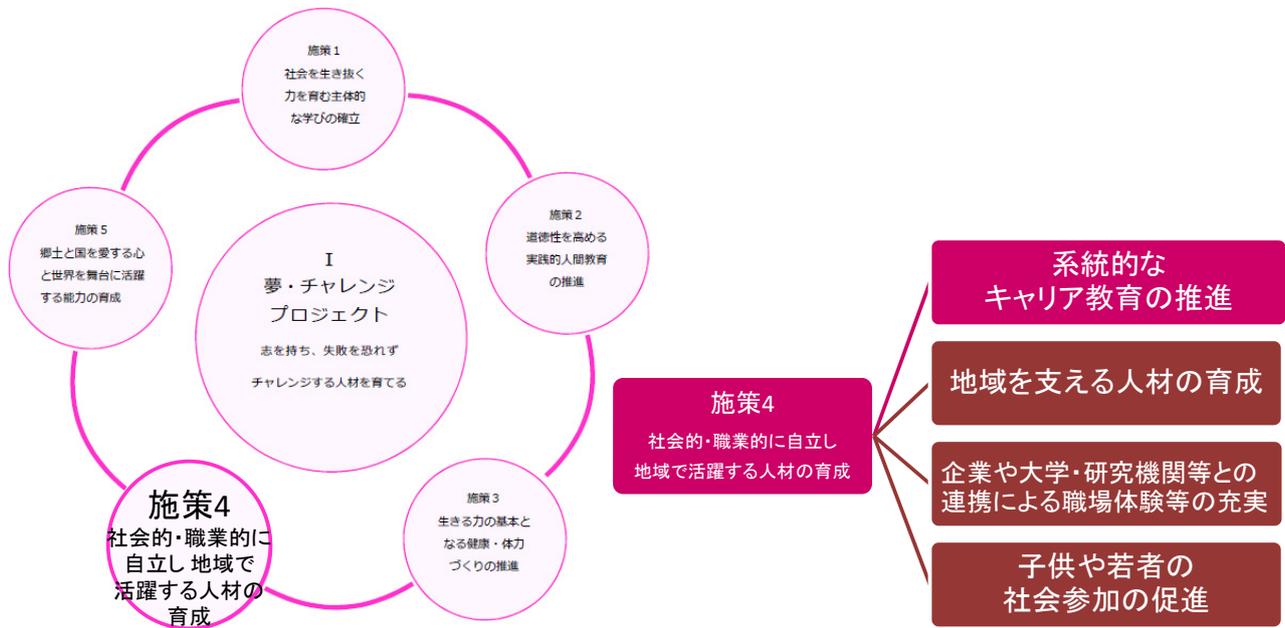


新 みんなで取り組む「教育立県ちば」プラン 平成31年度重点施策推進計画(工程表)におけるキャリア教育

第3章 主な事業の状況

プロジェクト I ー夢・チャレンジプロジェクトー

ー志を持ち、失敗を恐れずチャレンジする人材を育てるー (p.18～)

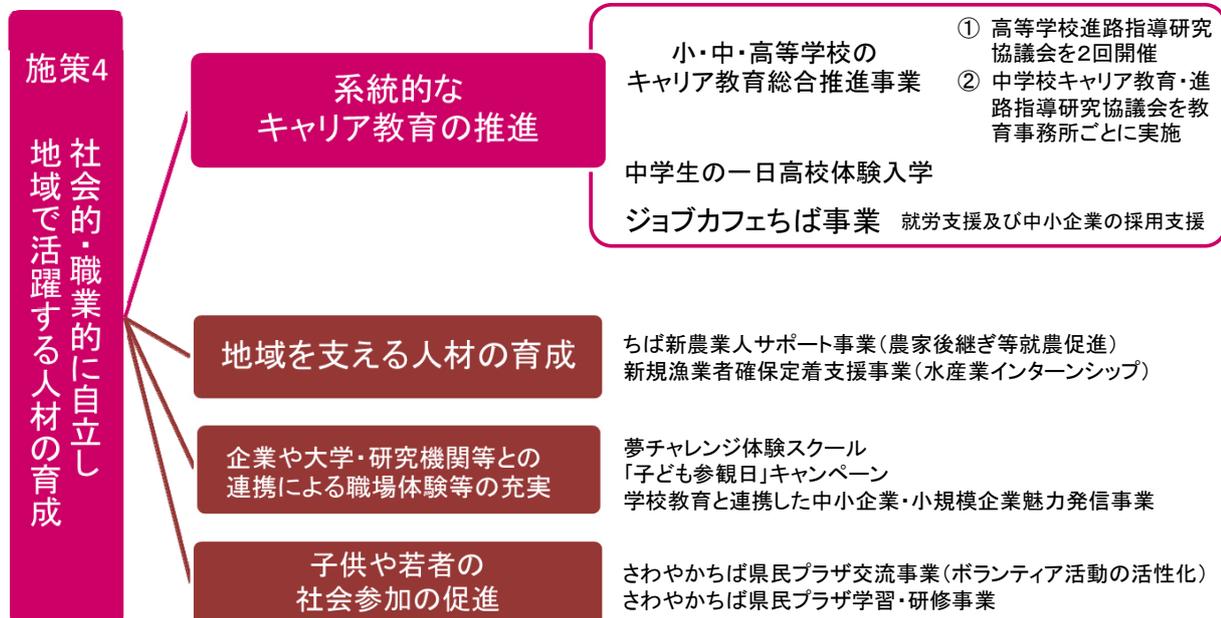


新 みんなで取り組む「教育立県ちば」プラン 平成31年度重点施策推進計画(工程表)におけるキャリア教育

第3章 主な事業の状況

プロジェクト I ー夢・チャレンジプロジェクトー

ー志を持ち、失敗を恐れずチャレンジする人材を育てるー (p.18～)

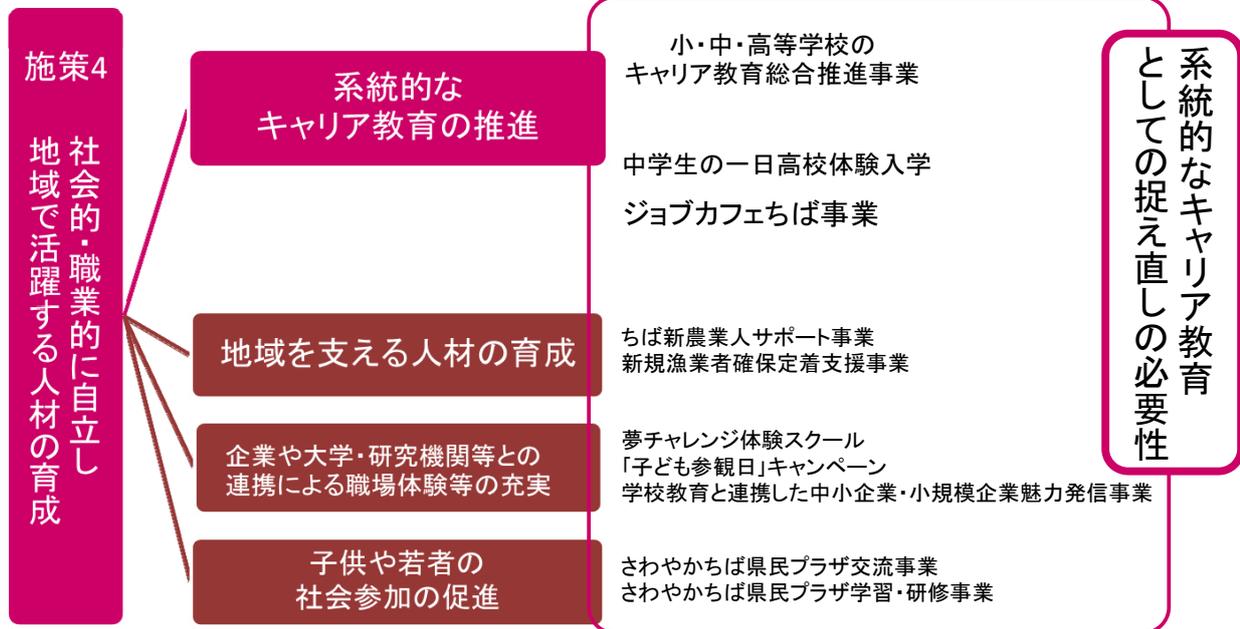


新 みんなで取り組む「教育立県ちば」プラン 平成31年度重点施策推進計画(工程表)におけるキャリア教育

第3章 主な事業の状況

プロジェクト I ー夢・チャレンジプロジェクトー

ー志を持ち、失敗を恐れずチャレンジする人材を育てるー (p.18～)



新 みんなで取り組む「教育立県ちば」プラン 平成31年度重点施策推進計画(工程表)におけるキャリア教育

第3章 主な事業の状況

プロジェクト I ー夢・チャレンジプロジェクトー

ー志を持ち、失敗を恐れずチャレンジする人材を育てるー (p.18～)

例えば、中学生を例にしても……

◆ 中学生の一日高校体験入学

- 中学生の一日体験入学夏休みを中心に、各高等学校の実情に合わせて、生徒・保護者を対象に実施

◆ 夢チャレンジ体験スクール

- サイエンススクール
- キャリア教育科学・先端技術体験キャンプ
- キャリア教育しごと体験キャンプ

「系統的なキャリア教育」の一環であることを、学校・教員のみならず、実施者・協力機関・保護者等が共通に認識して実施することが重要

◆ 「子ども参観日」キャンペーン

- 子どもたちが親の働く姿に接することができるよう、企業等に「子ども参観日」の実施を働きかけるとともに、実施した企業をWebサイト上で紹介するなど、企業等の参加を促進する

◆ 学校教育と連携した中小企業・小規模企業魅力発信事業

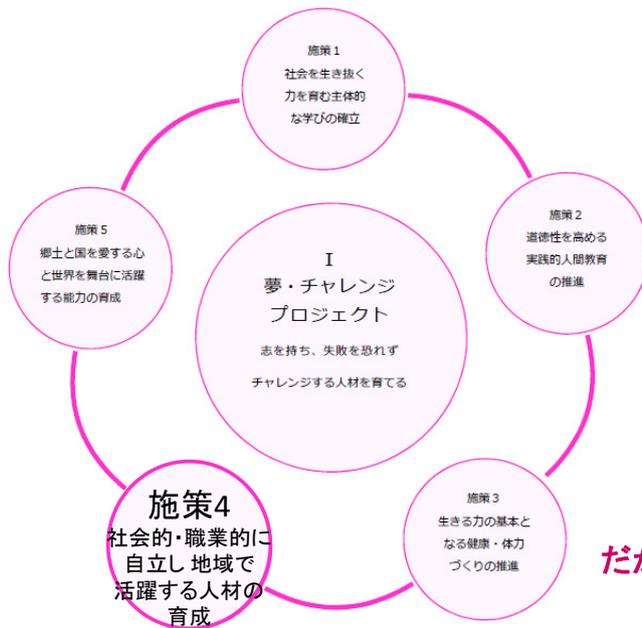
- 職場体験等の受入が可能な県内企業の情報を掲載したWebサイトについて幅広く周知・企業情報の更なる充実

新 みんなで取り組む「教育立県ちば」プラン 平成31年度重点施策推進計画(工程表)におけるキャリア教育

第3章 主な事業の状況

プロジェクト I ー夢・チャレンジプロジェクトー

ー志を持ち、失敗を恐れずチャレンジする人材を育てるー (p.18～)



施策4 社会的・職業的に自立し地域で活躍する人材の育成 (p.34)

- 子どもたちが社会に目を向けながら、学校での教科等の学びと将来の職業との関係に意義を見いだし、学ぶ意欲を持ち、日々学んでいることを将来社会で役立てられるよう、しっかりと身に付けさせる。
- 子どもたちの発達の段階に応じた体系的・系統的な一貫性のあるキャリア教育を学校の教育活動全体を通じて推進し、子どもの社会的・職業的の自立に向けて必要となる能力や態度を育成する。
- 子どもたちの勤労観・職業観を高めるとともに、地域の要請に応え、千葉県を愛し、千葉県を誇りに思い、地域を支える人材を育てるため、千葉県の多様な自然、産業、人材などを生かし、企業や大学、研究機関等と連携・協働した職場体験活動等を推進し、特に高等学校段階においては、様々な職業分野において必要とされる専門知識・実践力を身に付けるための教育の充実を図る。

だが…

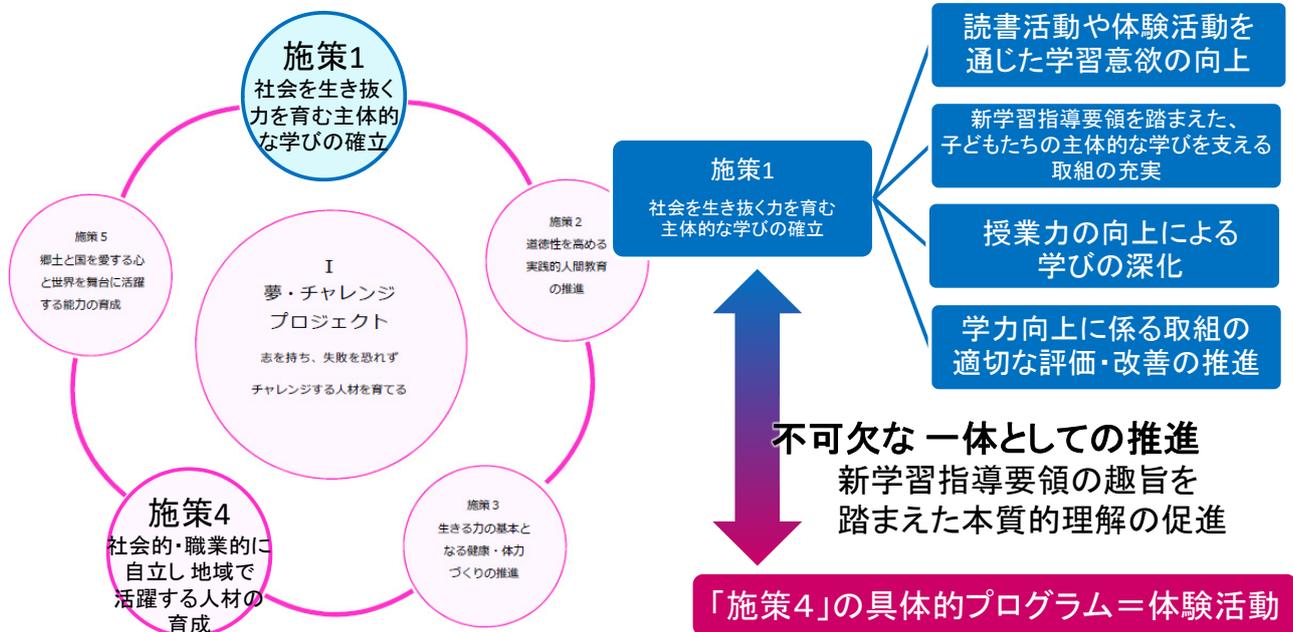
「施策4」の具体的プログラム＝体験活動

新 みんなで取り組む「教育立県ちば」プラン 平成31年度重点施策推進計画(工程表)におけるキャリア教育

第3章 主な事業の状況

プロジェクト I ー夢・チャレンジプロジェクトー

ー志を持ち、失敗を恐れずチャレンジする人材を育てるー (p.18～)



【再掲資料】

主体的・対話的で深い学びとキャリア教育

*見方・考え方＝各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方

「見方・考え方」には教科等ごとの特質があり、各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすものとして、教科等の教育と社会をつなぐものである。子供たちが学習や人生において「見方・考え方」を自在に働かせられるようにすることにこそ、教員の専門性が発揮されることが求められる。

子供たちに必要な資質・能力を育んでいくためには、各教科等での学びが、一人一人のキャリア形成やよりよい社会づくりにどのようにつながっているのかを見据えながら、各教科等をなぜ学ぶのか、それを通じてどういった力が身に付くのかという、教科等を学ぶ本質的な意義を明確にすることが必要になる。

【出典】中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」p.32



極めて重要な 各教科等を通したキャリア教育の実践

★ ありがとうございます

【参考資料】お手隙の折にお目通しいただきましたら幸いです。

筑波大学
キャリア教育学研究室

〒305-8572 茨城県つくば市天王台1-1-1 筑波大学人間系

トップページ
研究紀要
キャリア教育 よもやま話
主要リソースへのリンク集
Archives 2003-2007
お問い合わせ

キャリア教育 よもやま話 Just Mumbling...

第40話 教科を通したキャリア教育は難しい?—その3— (2018年9月24日)

今回のお題は、「教科を通したキャリア教育は難しい?—その3—」です。3回も同じお題を掲げるのは工夫に欠ける無粋の極み……とも思ったのですが、無粋だろうと何だろうと大切なことはちゃんと書いておかないとダメだよなと思い直してお届けします。相変わらずのお目汚しですが、お付き合いいただけましたら幸甚です。

◇

キャリア教育の実践にあたっては、「各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ることが大切。この点について微に入り細に入り解説めいたことをグダグダ繰り返すことはやめておきますが、1点だけ再確認させてください。ここで何より重要なのは、「各教科等の特質に応じて」キャリア教育の充実を図ること。仮に、教科の本質を損なうような、あるいは、

キャリア教育 よもやま話 検索



系統的なキャリア教育の更なる推進のために